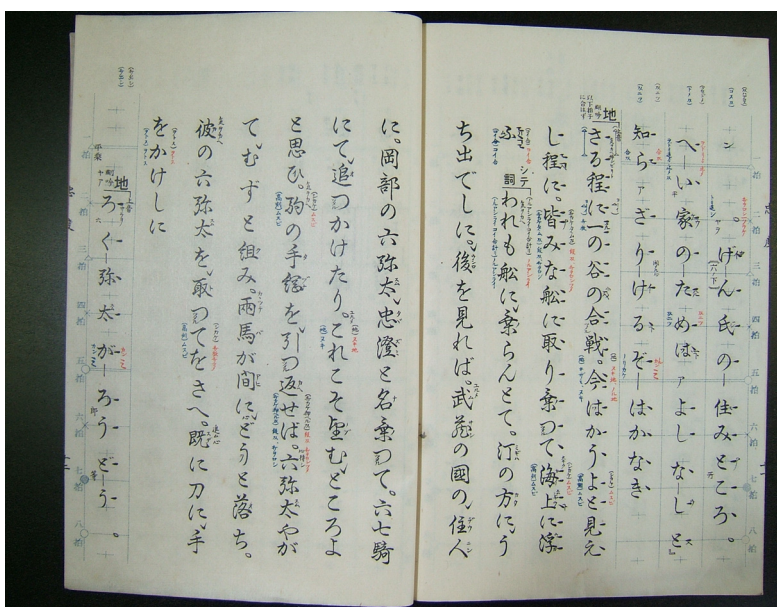


田崎延次郎 『大正十五年十二月檜常之助刊地拍子附謡本「忠度」』

写真下にあげたのは、後場、上歌の後、拍子合わずの部分である。おもしろいのは、この拍子合わずの部分にも、大鼓、小鼓それぞれ二流の手が書き込まれている点である。拍子合わずとはいえ、大小の手と謡の句とは、完全に無縁なのではない。そのことは拍子合わずの箇所すべてにいえることであるが、特にここは、シテ仕方話が緊迫した展開を示す見せ場であり、謡と大小との緊密な連動が求められるため、手の記載は不可欠と考えられたのであろう。一行目には、笛のあしらいの名「六ノ下」の記載も見える。



標題 内題…忠度

標題紙…

奥附…

その他…忠度(柱)、地拍子附大、小、太

鼓、笛、手配附 忠度 内八ノ

二(題簽)

著者 奥附…田崎延次郎

その他の場所…

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…檜大瓜堂書店

出版年…大正15 (1926)

その他の場所…

形態 冊数…一冊 頁数…一五丁

寸法…23×16 (cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考